

## 令和7年度第2回柏市農業振興審議会会議録

### 1 開催日時

令和8年2月5日（木）午後2時00分～午後3時00分

### 2 開催場所

柏市柏五丁目10番1号 柏市役所分室3 第4会議室

### 3 出席者

#### (1) 委員

染谷茂会長，染谷透副会長，増田委員，程田委員，榎委員，  
遠藤委員，成嶋委員，坂巻委員，鹿倉委員，小池委員

#### (2) 事務局

込山経済産業部長，中村農政課長，古関農政課主幹他

### 4 議題

(1) 柏市都市農業振興計画計画について

(2) その他

### 5 議事

(1) 柏市都市農業振興計画について

事務局より配付資料に基づき，前回計画案からの変更点，概要版について説明を行った。

（染谷会長）

本日答申を行うため，計画策定に向けて最後の機会となる。  
意見を伺いたい。

⇒委員より意見なし

（染谷会長）

意見はなかったため，この議論は終結する。

この結果を踏まえ，事務局の意見を聞かせていただく。

（事務局）

意見が無かったため，事務局としてはさらなる修正の必要

がないと考えている。

(染谷会長)

事務局から修正の必要がないとのことであるが、この最終案をもって、答申として良いか。

(全委員)

意義なし

(染谷会長)

答申とすることが決定されたので、進行を事務局に戻す。

【答申】

議論をふまえ、審議会から市長に対する答申書の執行を行った。

(2) その他

・ 柏市農業振興地域整備計画の全体見直しについて

事務局より配布資料に基づき、農業振興地域整備計画の全体見直しについて説明を行った。

(染谷会長)

農業振興地域整備計画について意見はあるか。

(染谷会長)

意見が無いようなので、質疑を終了する。

(染谷会長)

これまでの審議会を通して、委員から一言ずつコメントをもらいたい。

(鹿倉委員)

指導農業士として活動しており、耕作放棄地の解消については農業委員会としても対策を進めているが、全地区での解消には至っていない状況にある。時代背景を踏まえると、農業政策だけでは十分な対応が難しく、農業関係部門に限らず、関係部局や関係省庁も交えた形で検討を行い、農業を都市計画の一部として位置付けていく必要があるのではないかと感じている。また、水田として活用した場合にどの程度の利益が見込めるのかといった点も含め、個別の農地ではなく全体として農地を捉えながら耕作放棄地の解消を進めていく考え方が重要であり、今後はそのような視点を持って取り組んで

いきたい。

(成嶋委員)

青年会議の取組として、令和8年度に50周年を迎える予定であり、現メンバーとして夏に50周年記念パーティーや柏駅でのイベントの実施を検討している。委員の皆さまにも協力をお願いしたいと考えている。

(坂巻委員)

柏市農業の現状を見ると、15歳から39歳までの農業従事者が101名しかおらず、非常に少ない状況にある。今後さらに減少していくことが懸念される中で、新規就農者をこれまで以上に増やしていく取組が必要であり、そうした取組において協力できることがあれば関わっていききたい。

(槇委員)

県でも次年度以降の農林水産業振興計画の策定を進めている。柏市都市農業振興計画について、次年度以降も県の計画と連動させ農業振興に努めていきたい。

(小池委員)

農業従事者ではない立場として参加したが、柏市農業の現状や課題について多くの学びがあった。

(遠藤委員)

自身の地区では若い担い手がほとんどおらず、耕作放棄地は減らそうとしても実際には増え続けている。現在は一つの区画がおおむね3,000平方メートル規模となっており、そのような農地の放棄が進んでいるため、農地の集積を進めるに当たっては、農政課からの指導をぜひ強化してほしい。

(程田委員)

農業を取り巻く状況は依然として厳しいが、農協としても支援できる分野については、関係機関と連携しながら取組を強化していきたい。

(増田委員)

柏市農業の現状や課題について改めて勉強する機会となった。子ども食堂を運営している立場から、柏市の三大野菜や三大フルーツについて、子どもや家庭に知ってもらえるよう

今後も取り組んでいきたい。

(染谷透委員)

住宅地の中で営農を続けており、生産緑地の指定を受けながら何とか農業を続けている状況である。20年前と比べると出荷件数自体は大きく変わらないものの、出荷量は減少しており、後継者をどう確保していくかが大きな課題となっている。10年後、20年後を見据え、地域の環境やコミュニティの状況も踏まえながら、農業を維持していきたいと考えている。

(染谷会長)

農地が荒れてきている背景には、農地を耕す人、農家の数が減っているという現実がある。福島地域を見た際、役場のある集落周辺の田んぼはきれいに管理されている一方、離れた地域では農地の荒廃が進んでおり、日本の農地の現状を象徴していると感じた。柏市でも近年は同様の傾向が見られ、特に台地の畑では耕作されなくなった土地が増えている。以前は耕うんだけは行っていた農地も、現在では雑草が入り管理が困難な状況となっている。こうした農地で大豆や小麦の作付けにも取り組んでいるが、抜本的な対策が必要であり、農業は都市計画の一部として位置付けて考えていく必要がある。食料は非常に重要であり、他地域に任せるのではなく、柏市自身の課題として捉えるべきである。基幹的農業従事者の多くが高齢化し、新規就農者が極めて少ない現状の中で、将来にわたり食料を維持できるのかという強い危機感がある。今後は人と農地を一体として捉え、農地の機能が十分に発揮される仕組みをつくるとともに、利根川や手賀沼沿いの水田、台地の畑といった柏市の特性を生かし、都市近郊であっても農業が成り立つ姿を示していきたい。何らかの手立てを講じなければ、農地は荒廃が進む一方であり、今後も農政課と意見交換を重ねながら、柏市の農業の在り方を考えていきたい。

他になければ、以上で本日の議事は終了とする。

6 傍聽

傍聽者 2 名